



©秩父市

【地域課題に挑む！】 先端技術を活用した持続可能なまちづくりの実現 ～秩父市大滝地域における「秩父市移動支援プロジェクト」～



©秩父市



目次

1.埼玉県秩父市の概要について	・ ・ ・ P1
2.地域の課題と課題解決に向けた取組について	・ ・ ・ P2
3.「秩父市移動支援プロジェクト」概要	・ ・ ・ P3
4.事業詳細	・ ・ ・ P5
5.まとめ	・ ・ ・ P10

レポート概要

- ・ 埼玉県秩父市大滝地域は高齢化が進む中、生活インフラの脆弱性が課題となっている。
- ・ 5年間の「秩父市移動支援プロジェクト」によって地域住民にとって住みやすい街づくりを目指すとともに、地域課題の解決を図る取組を実施。
- ・ 地域のDXに関する取組という視点で、関東財務局総務課地域連携担当が取材し、まとめたもの。

秩父市の概要

●埼玉県内で最も広い自治体

- ・秩父市は埼玉県の北西部にあり、面積は県全体の約15%を占めている。
- ・市域の87%が森林で、山岳地方では冬季にはかなりの積雪となる。
- ・中でも「秩父市移動支援プロジェクト」の対象地域である大滝地域は秩父市の中心市街地から車で40分と距離があり、車移動が必須。ニッチツ鉱山で栄えたものの、現在は人口も市内で最も少なく、高齢者の割合も高い。

人口 市全体：57,212人 大滝地域：445人
高齢化率 市全体：35.6% 大滝地域：66.0%（令和7年1月1日現在）

👉 秩父市大滝地域について（下線部）は、次ページ以降を参照。



●大人気の観光地

- ・都内からは特急電車を利用して、最短80分。
- ・豊かな自然環境と四季折々の季節を楽しむことができる。



↑羊山公園芝桜の丘



↑秩父ミュージアパークの
雲海



↑秩父夜祭

- ・イチローズモルト（※）をはじめとする酒造りが盛んな地域。

（※）ワールド・ウイスキー・アワードで7度世界最高賞を受賞。

●アニメの聖地

- ・秩父市を舞台、モチーフにしたアニメ三部作があり、聖地巡礼スポットとして有名。

「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」

「心が叫びたがってるんだ。」

「空の青さを知る人よ」



©秩父市



©ANO HANA PROJECT

秩父市大滝地域の課題

住民にとって住みやすいまちづくりを構築し、人口減少に歯止めをかける必要。

・過去の災害時(※)において、生活インフラの脆弱性が浮き彫りとなり、緊急時の物資輸送の新たな手法の構築が必要。

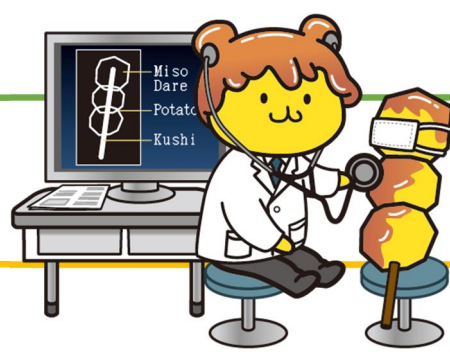
※平成11年8月：ゲリラ豪雨による河川の氾濫や土砂崩れ発生により道路が寸断され、地域に点在する集落が孤立。

平成26年2月：豪雪（積雪約1m）による主要道路の通行止めにより、生活インフラが寸断、特に薬の不足が深刻。

・バス等の地域公共交通の収支率が低く、自治体（県及び市）からの多額の補てんにより赤字路線を維持する状況。

・過疎地域であり住民の高齢化に伴う遠隔医療等の必要性。

・観光シーズンには主要道路が大渋滞になり、市民の生活に大きく影響。



©秩父市

課題解決に向けた取組

●事業名「秩父市移動支援プロジェクト」

事業年度：2020～2024年度 対象地域：秩父市大滝地域

「デジタル田園都市国家構想交付金 地方創生推進タイプSociety5.0型」採択

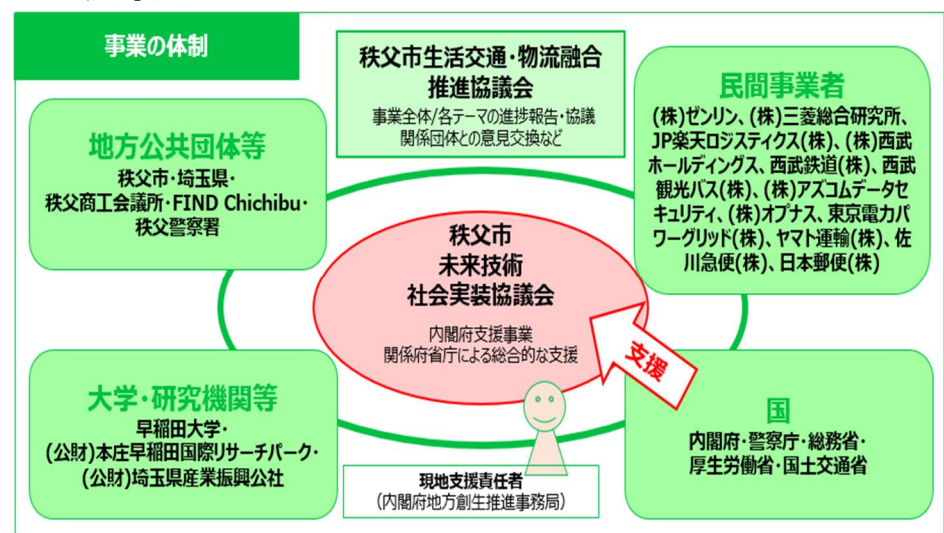
ゼンリン、三菱総合研究所、西武観光バス、ヤマト運輸、アズコムデータセキュリティ等と協働の上、地域住民との合意形成を図り、2020年度から5年間で以下の事業を実施。

地域住民にとって住みやすい街づくりを目指すとともに、新たな事業／産業を誘致し雇用の創出に繋げることで、人口減少・流失を抑制し、地域課題の解決を図る。

1. 生活インフラの維持（平時・災害時）
➡ドローン配送による物流の効率化や災害時の支援。
2. 生活交通と物流の維持
➡物流MaaSの導入による共同配送等の効率化。
3. 遠隔医療や医薬品配送の整備
➡ICT等を活用した遠隔医療、服薬指導等の実施。

※ 事業の概要は、添付「資料1・2」のとおり

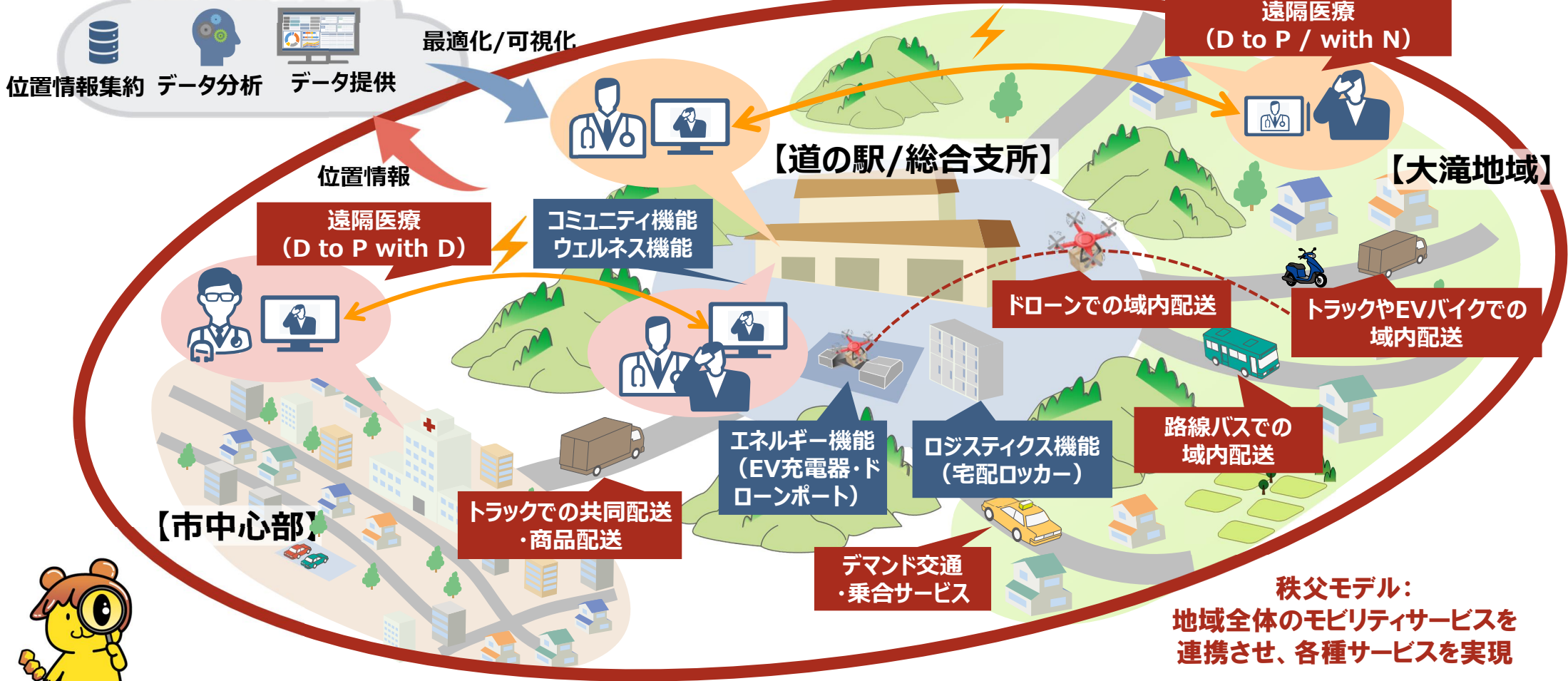
<実施体制>



【出典：秩父市HP（ポテくまくんの部屋）、秩父市未来技術社会実装協議会資料】

事業の概要：グランドデザイン

秩父ダッシュボードシステム：
地域全体のモビリティの位置情報を統合・可視化



©秩父市

事業の概要：事業スケジュール

- ・ **5年間の事業。2024年度は、第5期「実装フェーズ」として、各種サービスの実装を開始。**
- ・ 大滝地域で実施した秩父モデルの横展開を目指す。

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
 ▲【計画フェーズ】 生活交通・物流等の機能、サービスを有機的につなげていくための全体設計とニーズ調査	 ▲【計画フェーズ】 各分野別の実証実験と機能開発による個別最適化の検証と技術検証（年度初めは引き続きニーズ調査も実施）	 ▲【実証フェーズ】 各分野別の実証実験やプレサービスによる事業性の評価 ※平時・災害時のドローン配送を実施・検証	 ▲【実証期～実装期】 各分野別のサービス統合による全体最適化 ※システムのプレ運用、プレサービス開始、実装時の体制検討	 本格実装開始

大滝地域での社会実装開始。
 5年間の事業期間後の2025年度以降も、取組の横展開の検証を開始し、継続して推進。



各事業の動き①

1. ドローン配送による物流の効率化や災害時の支援

【2021～2022年度】

- ・災害時の緊急物資配送を想定した実証実験。
- ・2022年に発生した大滝地域中津川地区における土砂崩落をきっかけに衛星通信「Starlink」を活用した定期配送を実施（2024年1月に発生した能登半島地震の際に横展開）。



【2023年度】

- ・災害時に加え、平常時のサービス運用に向けてドローン機体の購入、ドローンポートの選定、飛行ルートを設定。
- ・その後、飛行実証を実施したほか（株）ゼンリンの協力により、ドローンパイロット講習（点検業務等の補助員講習）を実施。



【2024年度～】

- ・政府の「デジタルライフライン全国総合整備実現会議」において、**先行して事業展開されるアーリーハーベストプロジェクト（※1）の「ドローン航路（※2）」整備先行地域に選定。**
 - （※1）経済産業省が策定した約10年の「デジタルライフライン全国総合整備計画」における先行的な取り組み
 - （※2）約150km。秩父地域を含む埼玉県内13市町村に及ぶ。
- ・自治体や民間事業者と連携した「秩父市ドローン社会実装コンソーシアム」を設立（※次ページ参照）。
- ・2025年3月25日、世界初ドローン航路開通。



©秩父市

アーリーハーベストプロジェクト

2024年度からの実装に向けた支援策

ドローン航路

180km以上

【送電線】埼玉県秩父地域
【河川】静岡県浜松市（天竜川水系）

自動運転サービス支援道

100km以上

【高速道路】新東名高速道路駿河湾沼津SA～浜松SA間
【一般道】茨城県日立市（大甕駅周辺）

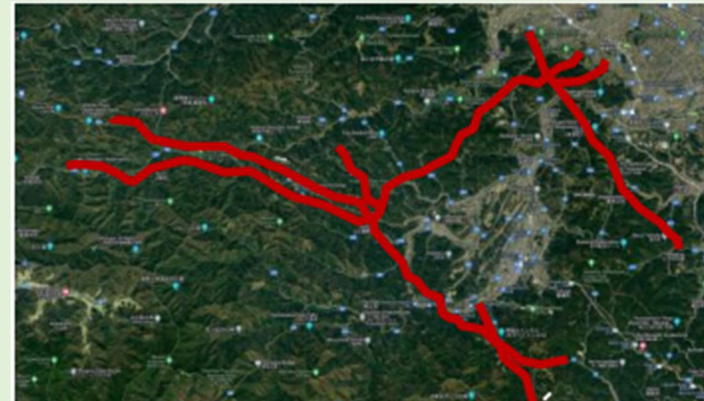
インフラ管理のDX

200km²以上

埼玉県 さいたま市
東京都 八王子市

奥能登版デジタルライフライン

有事に人がどこにいるかを把握するための共通の仕組みを平時から活用するためのインフラ整備等



【出典：秩父市HP（ポテくまくんの部屋）、秩父市未来技術社会実装協議会資料、秩父市HP、デジタルライフライン全国総合整備計画】



【設立趣旨】

「産学官金民」の各団体による連携において、積極的かつ主体的にドローンを中心とした各サービスの実装による地域課題の解決を図り、**先駆的で持続可能なまちづくりを実現させるため。**

【会員】

会員：事業者等49社、オブザーバー(国・県・自治体等)27団体、計76団体（2025年6月時点）

【取組内容】

- ・ 会員主導のプロジェクトの創出支援
- ・ 実証フィールドの提供等、
 会員による実証実験や社会実装に向けた取り組みへの支援
- ・ 会員間の情報共有及び連携促進に関する活動
- ・ 分科会の開催等による知識向上に関する活動
- ・ 先駆的なまちづくりのための事業化支援、交付金等の申請準備
- ・ その他コンソーシアムの目的達成に資する活動

2024年度重点検討分野は「物流」、「点検」、「空撮」の3分野。

【会議体開催】

総会：年1回以上 重点検討分野の各部会：2～3か月に1度
今年度より、会員の新たな活動の場として、各部会に検討した論点をあげる「検討会」を設置。

（参考）「先端技術まちづくり実現コンソーシアム」

ドローンに限定しない先端技術等を活用し、広域的な地域課題の解決を目的に発足予定。
会員主導の勉強会や情報交換等、正式なコンソーシアムの設立に向けて各種調整を図る。

地域課題 (秩父市の 重点分野)	行政の人材不 足/人口減での 税収減少	二次交通の 撤退/赤字	物流クライシス/ ドライバー不 足の深刻化	観光需要の 平準化/雇用 対策/人手不 足	超高齢化社 会への対応/ 社会福祉費 の増大	災害被害の 甚大化/自然 災害の多発	カーシェアリ ングへの対応 /SDGsへの 取り組み	多様な決済手 段への対応/ 地域通貨によ る地域活性化	インフラ老 朽化、維持 更新コスト の増大	有害鳥獣/ 従事者の 高齢化/担 い手不足
	行政手続	交通	物流	観光・産業	医療/ヘルス ケア	防災	環境	教育/ 子育て	インフラ管 理	農業・ 林業
サービス メニュー (案)	書かない窓口	ドローンタクシー SAVS	ドローン物流	観光MaaS	遠隔医療	緊急物資輸送 (ドローン)	水素ステーション (燃料補給機)	子供の見守り	河川監視	有害鳥獣対策
	市役所MaaS	ライドシェア	共同配送	決済/混雑予測	オンライン健康 相談	V2L	EV充電率	母子健康手帳 アプリ	橋梁/施設点検	農作物 農閑代行
	デジタル広報誌	グリーンスロー モビリティ	貨物運搬	デジタル地域通 貨	オンライン健康 イベント	デジタル避難所	バックカー車道 間ルート運行管 理			森林情報 データベース
		自動運転バス		雇用対策 (雇用促進)	健康マイレージ	捜索・救助活動	鳥獣害対策			
ドローンの 活用分野	(空撮・ドローン)	物流ドローン 大型ドローン	先端技術産業創 出・人材育成	物流ドローン (医薬品配送)	赤外線ドローン・ 物流ドローン	有害鳥獣追払い 用ドローン		点検ドローン 測量ドローン	赤外線ドローン・ 物流ドローン	

各事業の動き②

2. 物流MaaSの導入による共同配送等の効率化

【2022年度】

- ・大滝地域において、大手物流事業者5社（※）の配送物をすべてヤマト運輸に集約し、配送（この共同サービスを3日間試行）。

※ ヤマト運輸、佐川急便、日本郵便、西濃運輸、福山通運

【2023年度】

- ・大滝地域の物流拠点からラストワンマイルの配送を担う地元事業者を選定。
- ・名称を「おむす便」に決定。

【2024年度～】

- ・ヤマト運輸、西濃運輸、福山通運の3社の荷物を集約し、地元事業者が大滝地域の個人宅に配送するサービスを開始。

結 い ま ち 共 同 配 送 サ ー ビ ス
お む す 便



3. ICT等を活用した遠隔医療、服薬指導等の実施

【2022年度】

- ・オンラインでの栄養指導や聴診器診察の実証実験。

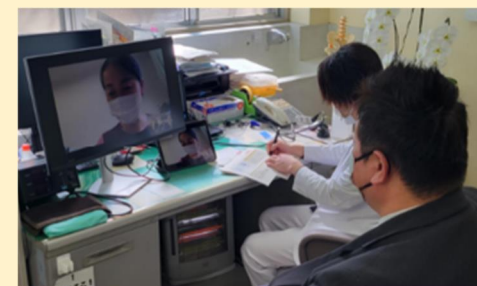
【2023年度】

- ・オンラインでの栄養指導、対面等で実施している
受診相談・訪問診療の一部をオンラインで実証実験。

【2024年度～】

- ・「オンライン栄養指導」、「D to P with N（Doctor to Patient with Nurse）」
（訪問診療時に看護師が患者宅を訪問して、診療所にいる医師がオンラインで診療）、
「オンライン受診相談」の3つの遠隔医療サービス（＝「そばいる」）を開始。

結 い ま ち 遠 隔 医 療 サ ー ビ ス
そ ば い る



独自の工夫点

●幅広い関係機関との連携

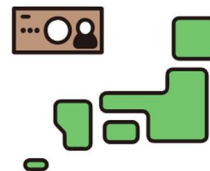
- ・事業実施にあたり、国、地方公共団体等、民間事業者、大学・研究機関等、幅広い「官民学連携」による体制（＝秩父市未来技術社会実装協議会）を構築（P2参照）。
- ・実証期間には、（株）ゼンリンの協力による「ドローンパイロット講習」の実施（P5参照）や、大手物流事業者5社との連携による共同配送サービスの試行等を実施（P7参照）。
- ・アーリーハーベストプロジェクトの「ドローン航路」整備先行地域（P5参照）に当市とともに選定された静岡県浜松市（※）のほか、県内自治体と各種連携。
（※）コンソーシアムへの参加による情報交換、他自治体へのドローンサミットへの共同登壇等



©秩父市

●企業版ふるさと納税の活用

- ・県外の企業含め、本事業を応援したいと考えた企業からの寄付を活用。



●地域住民からの理解向上のための取組み

- ・2020～2024年度、「未来技術披露会」を4回開催し、地域住民（子ども含む）や地元事業者に対して、本事業の取組みを紹介。
- ・そのほか、地方らしい回覧板の活用や、「顔の見える」説明会等、ニーズに合った取組みを実施。



●「秩父市ダッシュボードシステム」の活用

- ・本事業の中で得られるデータを収集・分析・可視化し、情報発信。
＜市民向け＞市内の交通情報や気象情報、イベント情報等
＜行政向け＞事業評価指標（KPI）の進捗確認や各種行政計画立案の基礎情報として活用可能



関連の動き

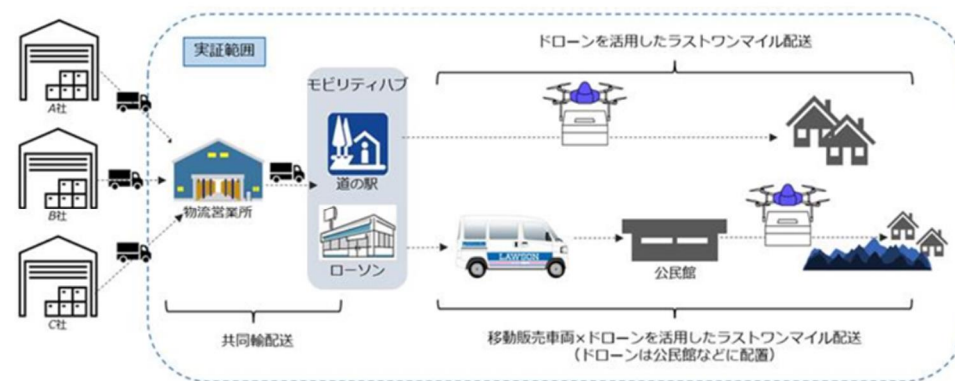
- 「秩父市移動支援プロジェクト」は事業期間を終えているものの、各種取組みを活用し、横展開。

【2024年10月】

「運輸部門の脱炭素化に向けた先進的システム社会実装促進事業（環境省）」採択

- 佐川急便、KDDIがそれぞれ秩父地域を実証フィールドとする事業で採択される。
- 秩父市の役割は、実証フィールド提供のほか、地域住民の合意形成（チラシ回覧等）、アンケートやヒアリングによる地域ニーズ調査等。
- 今後、おむす便事業の活用も検討（おむす便の共同配送×一部地域のドローン配送による物流効率化を図る）。

代表事業者名	実証事業名	実証フィールド
佐川急便	「地域配送ネットワーク」プラットフォーム構築（ドローン・共同配送を活用したスマート物流）	秩父市内吉田地区
KDDI	モビリティハブで実現する共同配送とドローン活用によるCO2削減	秩父市内荒川地区



<本実証のイメージ>

↑ KDDI実証イメージ

今後について



©秩父市

今後、人口減少や高齢化等の地域課題がさらに進行していくことが想定される中、引き続き丁寧な情報共有を行い、地域住民、企業等からの理解・協力を得ながら、連携体制を構築。

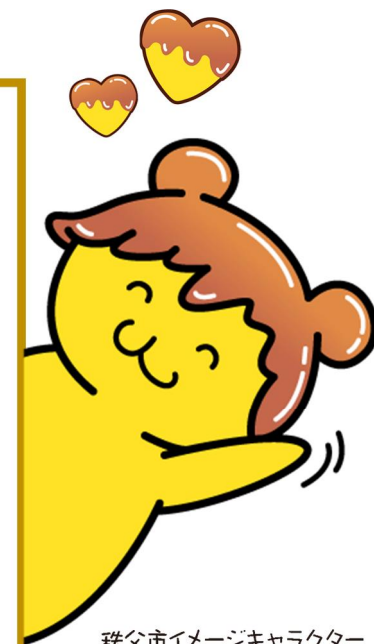
ドローンをはじめとした先端技術等を活用した各事業の社会実装を進め、企業誘致や雇用の創出にもつなげ、先駆的で持続可能なまちづくりを実現していく。

本レポートを作成して



関東財務局公式マスコット
いつときゅん大

- ・本レポート作成にあたり、秩父市産業観光部先端技術推進課の職員の方に直接お話を伺い、当市が積極的、先進的に地域課題の解決に取り組んでいることが分かった。特に、物流・交通・医療の多分野を統合した包括的アプローチを行っている点、国や自治体のみならず15社以上の事業者や大学等との官民学連携により、技術のみならず、制度設計・人材育成・データ活用等を含め各部門で強力な体制が整っている点は強みといえるのではないかな。
- ・また、印象的だったのは、本事業を推進するにあたり、決して市が一方向的に進めていくのではなく、地元住民や地元事業者に理解していただく必要性を認識し、適時丁寧に情報共有を行う等「置いていかない努力」、「受け入れられる努力」をしていることである。
- ・秩父市移動支援プロジェクトは5年の計画期間を経過したところだが、その成果を活かし、コンソーシアムの立ち上げなど、取組をさらに継続、加速させている。今後も地域の課題解決・活性化に向けた取組みに期待しつつ、作成者としても日々進化する秩父市を陰ながら応援していきたい。



秩父市イメージキャラクター

ポテくまん

©秩父市

本レポートの作成にご協力いただいた秩父市役所の皆様、
ありがとうございました！